



Identica T500

Vol.1

2023.02

株式会社ジオメディ

〒812-0041 福岡県福岡市博多区吉塚 1 丁目 38-28 ジオビル

(TEL) 092-409-4050 (FAX) 092-409-4051 (WEB) <http://www.geomedi.co.jp>

① 製品 -----	2p
① 製品仕様 -----	2p
② 可能なケース -----	2p
③ PCスペック -----	2p
④ 名称(アクセサリー) -----	2p
② 注意事項 -----	3p
③ 作業の流れ -----	4p
④ 設置方法 -----	5p
① col lab S/Wの設置 -----	6p
② col lab S/Wのみの設置やexocadがもう設置されている場合 -----	6p
③ Identico T500の設置 -----	7p
⑤ 使用方法 -----	8p
① col lab S/W User interface -----	9p
② マルチダイの画面構成 -----	9p
③ 矯正の画面構成 -----	14p
④ インポートの画面構成 -----	16p
⑤ スキャンの画面構成 -----	18p
⑥ col lab Scanの使用方法 -----	19p
⑥ キャリブレーション -----	20p
① PNLファイル選択 -----	21p
② キャリブレーション周期 -----	22p
③ 最適化(Zoom fit) -----	23p
⑦ メンテナンス -----	24p

① 製品

① 製品仕様

サイズ (W×D×H)	290 x 290 x 340 mm
重さ	12 kg
光源	LED,150ANSI-lumens
ライト	Blue LED
テクスチャー	color textures
インターフェース	USB3.0 B type
電源	AC 100-240V,50-60Hz
カメラ	二台搭載
カメラ解像度	Mono 2.0 (MP)
ポイントの間隔	0.056mm
スキャン域	90 x 72 x 60mm
軸	3 軸

② 可能なケース

Identica T500 で可能なケースは次の通り

- Single coping
- Bridge framework
- Anatomical copings and framework
- Full anatomical bridge
- Veneers
- Single waxup / Waxup bridge
- Over-press crowns and bridges
- Post & Core
- Telescope
- Customized abutments
- Implant bars and bridges
- Removable partial design
- Orthodontics
- Virtual articulation
- Full denture

③ PCスペック

*注意

USB3.0 ポートの専用で設計されている
 必ずパソコンの USB3.0 ポートに繋ぐ
 Window 32bit と Mac では作動しない
 スキャン S/W を設置する前に Windows のアップデートと
 メインボード、VGA カード、USB 装置のドライバーを
 最新バージョンにしソフトウェアを設置する

最低スペック

CPU	Intel i5 2.6GHz 以上
RAM	8 G 以上
Graphic Card	NVIDIA GeForce GT 730(1GB) 以上 同等の ATI グラフィックカード
O/S	Windows8 64Bit (32Bit 使用不可)

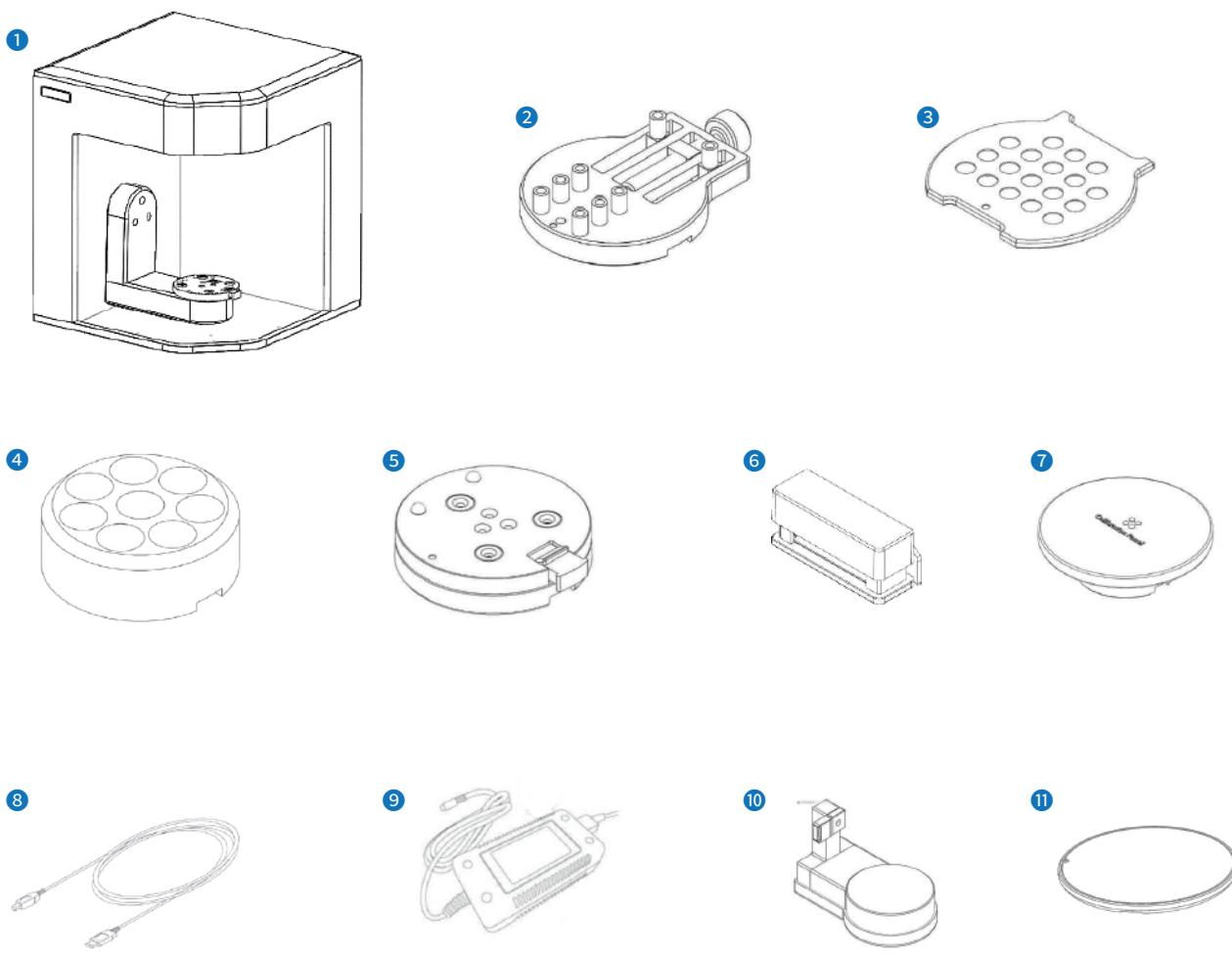
推奨スペック

CPU	Intel i7-3770 3.4GHz 以上
RAM	16G 以上
Graphic Card	NVIDIA GeForce GT 1060(3GB) 以上
O/S	Windows10 64Bit (32Bit 使用不可)

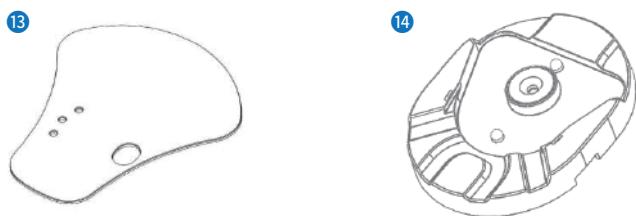
④ 名称 (アクセサリー)

＊ 注意

箱を開封する際に、アクセサリーが全てあるか確認して、足りないものがあれば弊社へ連絡する



オプション (別途)



- ① Identica T500 本体
- ② Screw ジグ (2 個)
- ③ Gum ジグ
- ④ マルチダイ
- ⑤ ハーフブロックジグ (2 個)
- ⑥ 印象スキャン用ジグ
- ⑦ キャリブレーションパネル
- ⑧ USB ケーブル
- ⑨ 電源ケーブル・外部アダプター
- ⑩ 3 軸アーム (印象)
- ⑪ フレキシブルマルチダイ
(支台歯用マグネット 16 個セット)
- ⑫ インストール USB (マニュアル込み)
- ⑬ 咬合器プレート
- ⑭ KAS ジグ

② 注意事項

一般的な注意事項

- ・熟練者以外の方は本製品を使用しない

設置時の注意事項

- ・気圧、温度、湿度、通風、埃、塩分、イオン等を含んだ空気に悪影響がない場所に設置する
- ・傾斜、振動、衝撃等の安全状態に注意する
- ・化学薬品の保管所及び、ガスの発生場所に設置しない
- ・換気ができない場所に設置しない
- ・電源周波数と電圧及び許容電流（又は消費電力）に注意する

製品使用前の注意事項

- ・全てのアクセサリーが正しく接続、固定されているかを確認する
- ・本製品が、デバイスマネージャーに正しく認識されたかを確認する
- ・スキャナの軸を無理矢理動かさない

本製品使用中の注意事項

- ・使用中に衝撃及び振動を与えない
- ・使用中にスキャナの電源を切らない
- ・使用中に通風口を塞がない
- ・本製品やケーブルが、煙ったり変な臭いがする場合、直ちに電源スイッチを切り、電源プラグを抜いた後で弊社に連絡する
- ・長時間使用しない時や、不在の時には電源プラグをコンセントから抜いておく
- ・本製品に問題がある場合、故意に製品を分離・組立せず、異常の有無を確認し弊社に修理を頼む
- ・改造は行わない

③ 作業の流れ

Identica T500 は歯科及び、技工所の形態、規模と関係なく高い品質と生産性の

スキャンデータを提供するように、作業の流れが設計されている

直観的で使用者に操作しやすく、正確で速くスキャンを進行することが可能

本製品の特別な機能である印象スキャンを使用後、補綴物を製作する間に

モデル製作が可能なので総製作を最大 1 日節約することが可能になる

- オーダー作成

製作する補綴物の歯牙設定を、colLab 又は CAD S/W で歯牙設定の行程を作成する

- モデルスキャン又は印象スキャン

本製品で colLab Scan オーダーの行程で、作成した歯牙設定により石膏模型のスキャンを進める

アナログ方法から脱して本製品の特徴である、印象を直接スキャンして補綴物を製作する

- CAD 作業

CAD ソフトウェアを利用して補綴物をデザインする

- CAM 作業

CAM ソフトウェアを利用してデザインした補綴物を NC データに変換する

- 加工

CAM 切削機を利用して変換したデータで補綴物を製作する

- 仕上げ

製作した補綴物の仕上げ作業を行う

Scannar and Scanning software

- Scanner : Identica T500

Identica T500 は多様な歯科用モデルと、印象から速くてわかりやすい、正確なスキャンデータを獲得することができるよう設計されたスキャナである

Full arch Scan に、たった 16 秒と速いスキャン速度を保証し、

Triple camera スキャン技術により死角を解消し、より精密なスキャンが可能である

本製品は、使用者の既存のワークフローを革新的に改善し、使用者の利便性を極大化した製品である

また、世界で初めて脱着式の 3 軸アームを搭載しており、手軽に印象の自動スキャンが可能

- Scanning Software:colLab 2017

ColLab 2017 プログラムは、歯牙を設定する「ColLab」、スキャンを行う「ColLab Scan」と、自動でアップデートを行う「Update Agent」の 3 つで構成されている

直観的で使用者に操作しやすく設計されたので、簡便にスキャンデータを獲得することができる

また、インプラント補綴物の正確なスキャンのために、

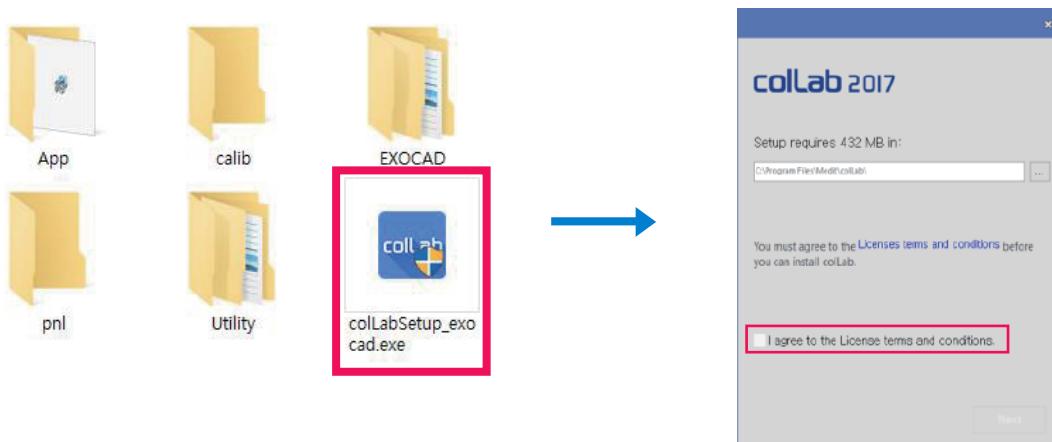
スキャンプログラムの中にスキャンボディを整合する機能が追加された

高い生産性及び、迅速なスキャンの進行のために、フレキシブルマルチダイ機能も新設された

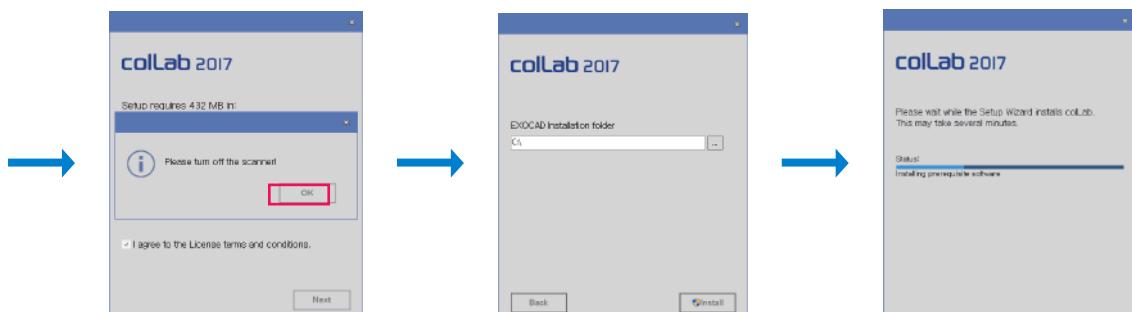
④ 設置方法

① colLab S/W の設置

- ・設置プログラムのフォルダーを開いて、「colLabSetup_exocad.exe」を実行する
先に設置する位置（基本経路を推奨）を決める
次のライセンス条項を確認後、同意「I agree...」を選択して、「Next」ボタンをクリックする



- ・スキャナの電源が付いている場合には、必ず OFF の状態にして、「OK」をクリックして次の行程に進む



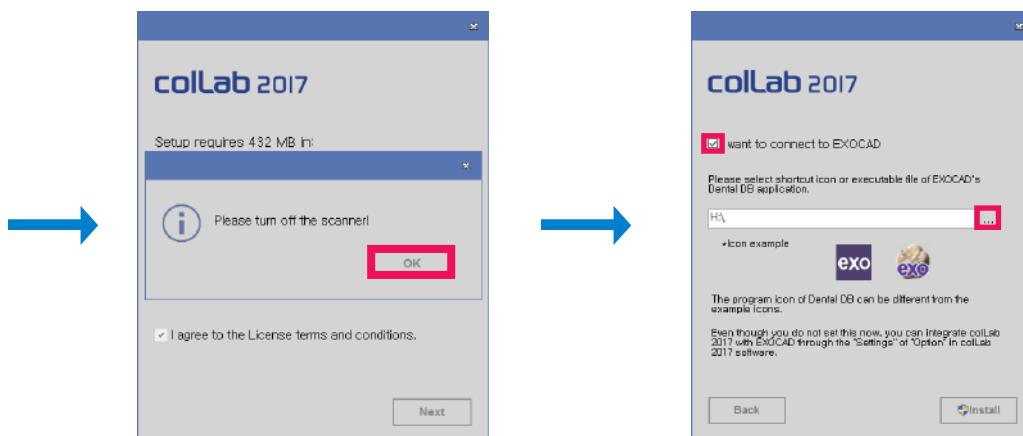
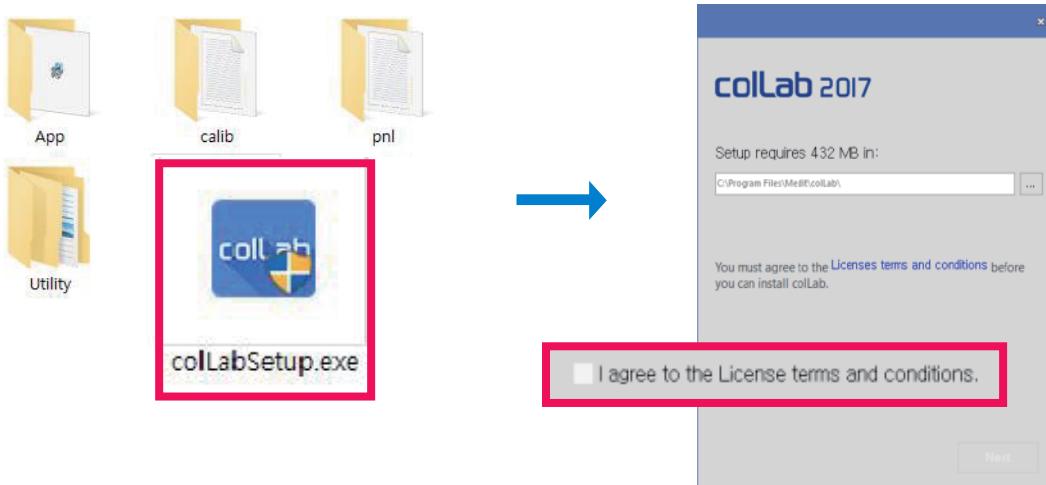
colLab 2017 S/W 及び、
必要な S/W を自動で設置する
パソコンの状況よって
数分もかかることがある



- ・設置が完了したら必ず
パソコンを再起動する

② colLab 2017 S/Wだけ設置したり exocadがすでに設置されている場合(colLabinstaller_2.0.0.0)

設置プログラムのフォルダーを開いて「colLabSetup.exe」を実行する
先に設置する位置（基本経路を勧奨）を決める。次のライセンス条項を確認後、
同意「I agree」を選択して、「Next」ボタンをクリックする

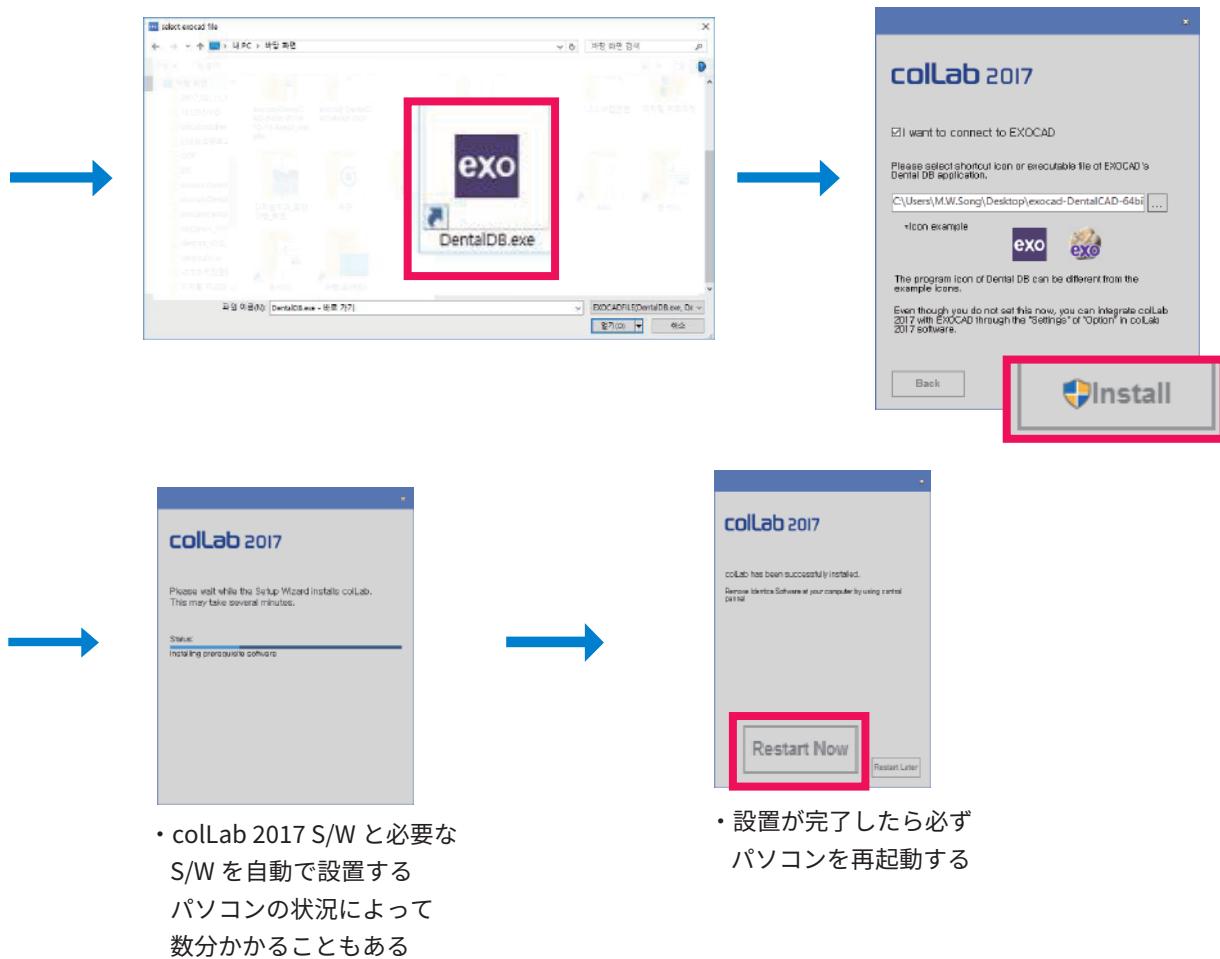


- スキャナの電源が付いている場合には必ず OFF の状態にして、「OK」をクリックして次の行程に進む

- exocad と自動で連動したい場合には、「I want to connect to the EXOCAD」をチェックして「...」ボタンをクリックする

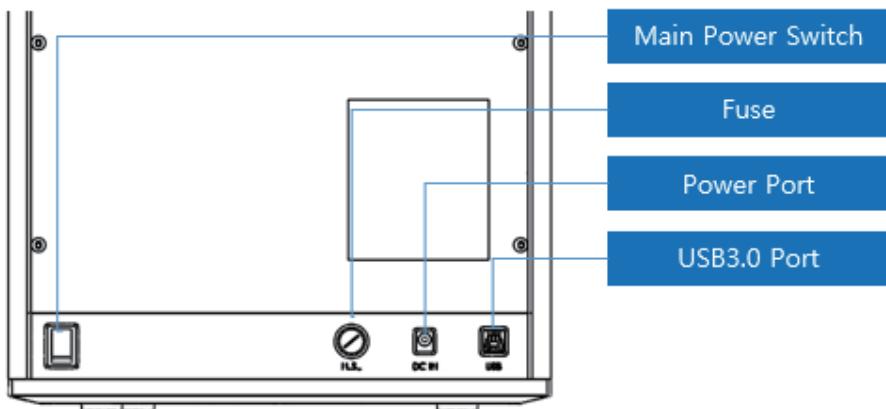
ファイルを選択で、exocad の「Dental DB」のアイコンをクリックして次の行程に進む

④ 設置方法



③ Identica T500 の設置

- ・インターフェース



- ・電源ケーブルを繋ぐ

① USB ケーブルを USB 3.0 ポート（青い色）に繋ぐ（必須事項）



② Identica T500 裏面の電源スイッチを入れる

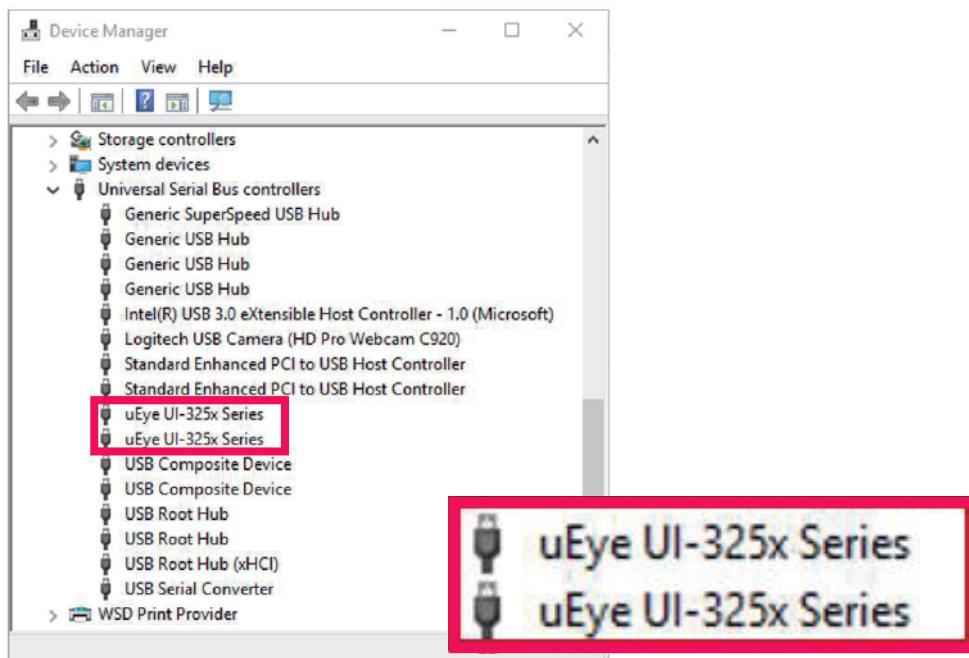


- ・ハードウェアの設置確認

本製品の電源を入れて、パソコンのデバイスマネージャーを確認する

- ・カメラの確認

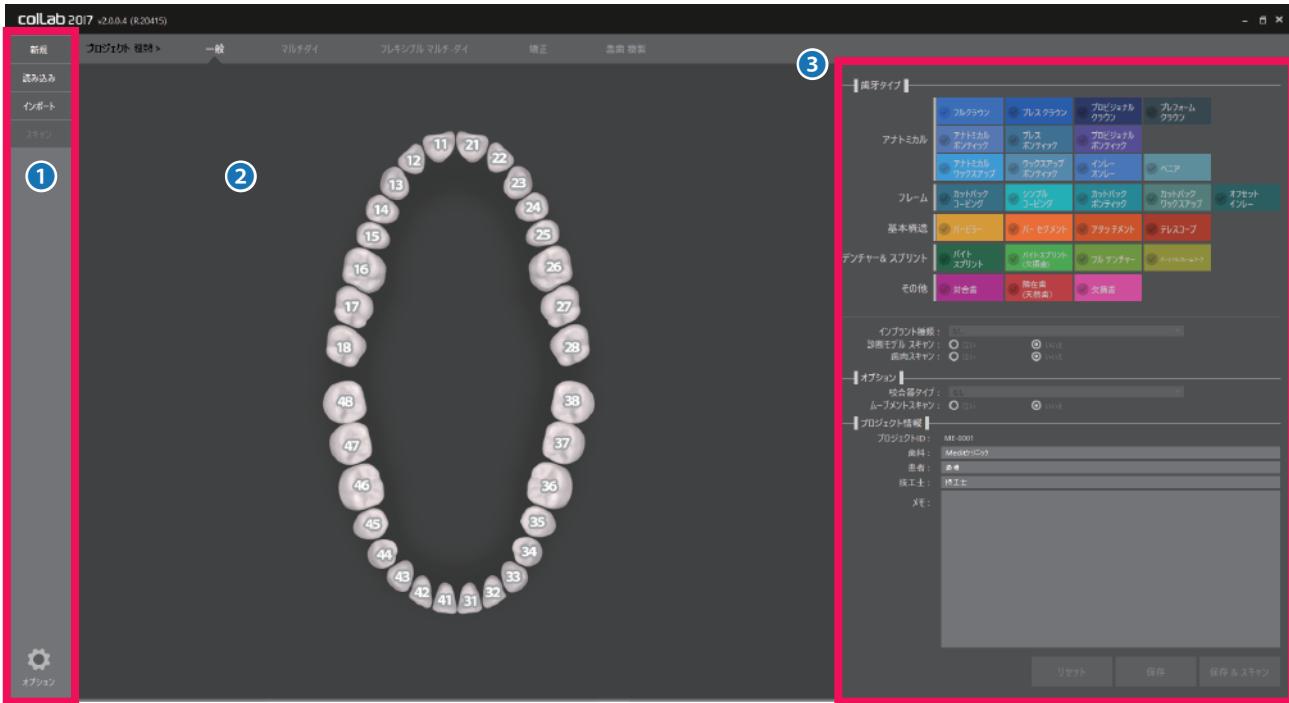
2つのカメラがデバイスマネージャーに正常に登録されていることを確認する



⑤ 使用方法

① colLab S/W User interface

colLab プログラムを実行すると、下の画面が出る



・ボタン説明

① メニュー

「新規」: 新しい作業を作成する

「読み込み」: 作業したファイルを読み込む

「インポート」: 「.dentalproject」ファイルを読み込む

「スキャン」: スキャンプログラムを実行する

② 歯牙設定

「一般」: マルチダイで支台歯だけスキャンするケースではない全ての場合に使用する

「マルチダイ」: マルチダイで支台歯だけスキャンして作業する際に使用する

「矯正」: 矯正モデルをスキャンする際に使用する

「歯牙番号」: 作業する歯牙を設定する際に使用する / 歯牙番号は「オプション」で変換が可能

作業設定

・歯牙タイプ ▶ アナトミカル

「フルクラウン」：支台歯にフルクラウン、完全な歯牙形態の補綴物

「プレスクラウン」：2つ部分で製作する補綴物 (Cut-Back コアの役割をする frame の 1 次作業後、
補綴物の咬合面を再現するために、Wax/PMMA で製作して鋳造する 2 次作業)

「プロビジョナルクラウン」：外面は天然歯の形態、内面は仮想の支台歯形成を利用した補綴物
(支台歯形成をしない歯牙に、臨時歯牙を作るために使用)

「プリフォームクラウン」：加工時間を節約するための半加工の特別なブロック

「アナトミカルポンティック」：完全な歯牙形態のポンティック

(補綴物と並んで設定すると、自動的にブリッジの連結部が生成される)

「プレスピонティック」：プレスクラウンと同一機能のポンティック

「プロビジョナルポンティック」：プロビジョナルクラウンと関連したポンティック
(プロビジョナルクラウンとは違い、内面が支台歯形成された形態ではなく、
ポンティックの形態なので必ず正しい歯牙の形態が必要)

「アナトミカルワックスアップ」：支台歯とその上の完全な形態のワックスアップ補綴物をスキャンした後

複製された補綴物 (補綴物の複製加工のため)

「ポンティックワックスアップ」：ポンティックの部分に、完全な形態のワックスアップ補綴物を
スキャンして複製された補綴物 (補綴物の複製加工のため)

「インレー / オンレー」：支台歯に完全な形態のインレー、オンレー製作

「ベニア」：支台歯にベニア、ラミネート製作

・歯牙タイプ ▶ フレーム

「カットバックコーピング」：支台歯に完全な形態の補綴物で、セラミックで作業する部分を削除または、縮小して製作する補綴物

「コーピング」：支台歯の上に一定な厚さのキャップ補綴物

「カットバックポンティック」：ポンティックの部分に、完全な形態の補綴物でセラミックで作業する部分を
削除または、縮小して製作する補綴物

「カットバックワックスアップ」：支台歯とその上に完全な形態のワックスアップ補綴物をスキャンし
複製してセラミックで作業する部分を削除または、縮小して製作する補綴物

「インレー」：インレーの支台歯の上に、一定な厚さのインレー補綴物 (通常、セラミック作業へ進んで完成する)

「プレスピонティック」：プレスクラウンと同一の機能をするポンティック

・歯牙タイプ ▶ 基本構造

「バーピラー」：インプラントが位置した部分として、バーのピラー部分

「バーセグメント」：バーのピラーの間に、バーが入る部分

「アタッチメント」：アタッチメントを装着する支台歯

「テレスコープ」：支台歯に二重管補綴物の内管補綴物

・歯牙タイプ ▶ バイト

「バイトスプリント」：ナイトガード、マウスガード、咬合矯正装置等のスプリント装置物を製作

「バイトスプリント(欠損歯)」：スプリント装置の中で歯牙がない部分

・歯牙タイプ ▶ **その他**

「対合歯」：製作する補綴物歯牙の反対側（スキャン進行）

「隣在歯（天然歯）」：スキャンする補綴物を除く

「欠損歯」：喪失歯としてブリッジで製作せずに次の行程へ

・歯牙タイプ ▶ **インプラント種類**

「なし」：支台歯が、インプラント補綴物ではない場合

「カスタムアバットメント」：インプラントカスタムアバットメントを、スキャンボディを使用して製作する

「カスタムアバットメント（手動）」：チタンリンクまたは、インタフェースをスキャンスキャンボディを使用せず直接スキャンして
その上に、アバットメントをデザインする

「スクリューリテイン」：インプラントのエクスターナルタイプのアバットメントの上にねじを利用して、固定される補綴物

「スクリューリテイン（手動）」：SCRP クラウンを製作

・歯牙タイプ ▶ **インプラント種類**

「診断モデルスキャン」：診断模型やスターイデイモデル等を製作する際に、参考にする模型がある場合

・歯牙タイプ ▶ **歯肉スキャン**

「歯肉スキャン」：模型に別途の歯肉部分を分離してスキャン

・オプション ▶ **咬合器種類**

「なし」：対合歯の歯牙設定をしない

「Etc」：咬合スキャンの際、咬合器プレートを使用せず、ジグに上 / 下顎を装着してスキャン

「アーテックス」：アーテックス咬合器を使用したモデルをスキャンして、咬合器プレートを使用して咬合スキャン

「カボ」：カボ咬合器を使用したモデルをスキャンして、咬合器プレートを使用し咬合スキャン

「サム」：サム咬合器を使用したモデルをスキャンして、咬合器プレートを使用し咬合スキャン

「プレート」：大型咬合器を使用の際、一般のジグで咬合スキャンが出来ないため、咬合器プレートを使用して咬合スキャン

・プロジェクト情報

「プロジェクト ID」：ID

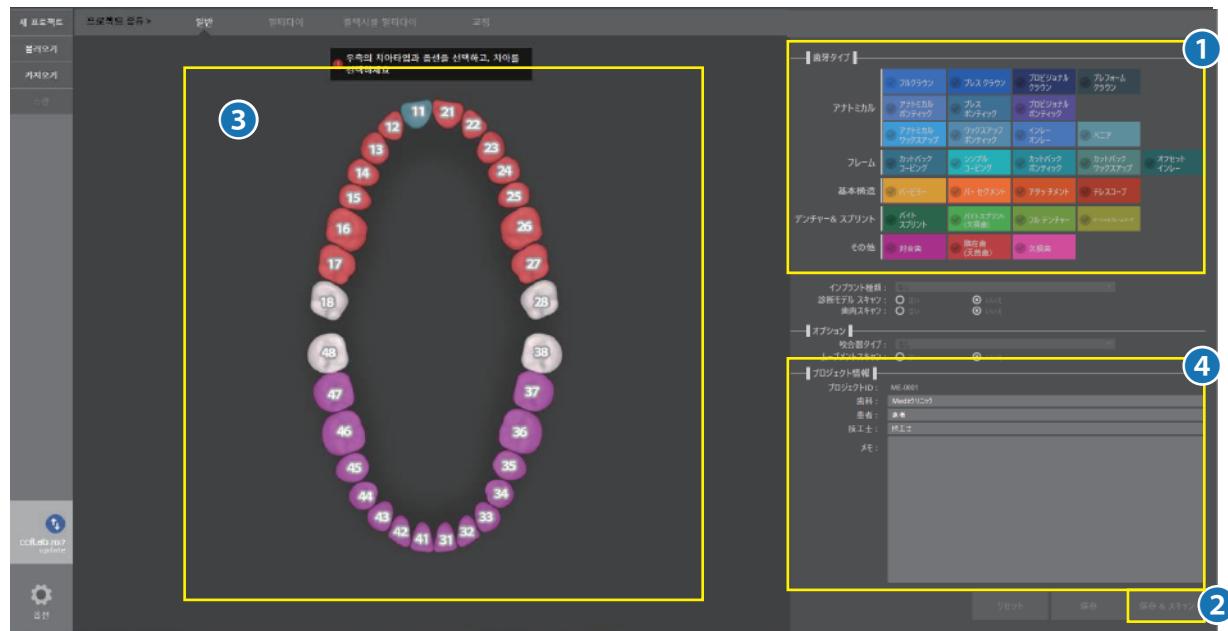
「歯科」：歯科情報

「患者」：患者情報

「技工士」：作業者情報

「メモ」：特記事項

実行作業情報



下記の手順の通り、作業情報を入力する

① 補綴物の種類を選択する

- 選択した補綴物は種類によってそれぞれ違う色で表示される

詳しい内容は<作業設定>p11を参照する

② 対合歯がある場合には、対合歯を選択する

- 対合歯のスキャンする際に、反対側の顎弓の最初1つ歯牙の以上を、補綴物の「対合歯」で選択する

③ 設定した補綴物の間の連結バーを利用して、ブリッジの有 / 無を選択する

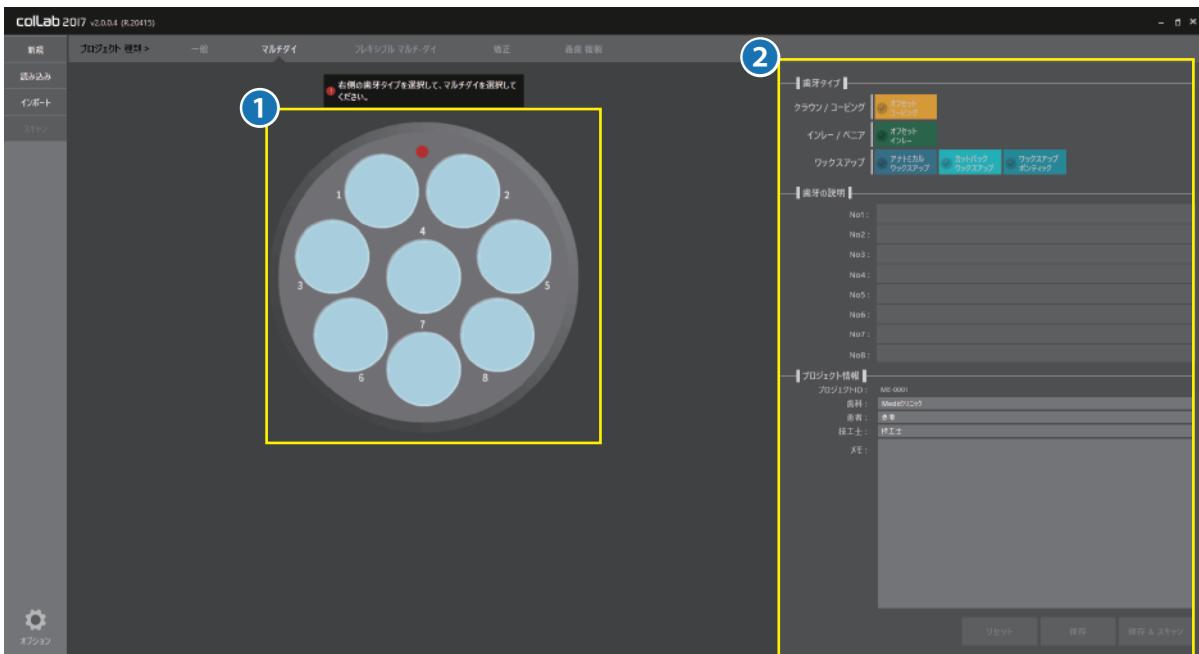
- 基本的にポンティックを設定すると、両側の歯牙に連結部が自動で生成される
- 白いバー：連結部があり（ブリッジ）
- 濃い灰色：連結部がない（連結部が必要な場合、連結点をクリックする）
- 赤い：連結部の生成が不可能・隣接した歯牙の材料が異なる場合
- 連結点が表示されていない場合：選択した補綴物が連結部を許可しない場合

④ 歯科、患者、作業者などの情報を入力

- 保存と作業実行
- 作業情報の入力を完了後「保存 & スキャン」をクリックする
- 保存した作業情報がデータベースに追加され作業フォルダーが生成される
フォルダーには作業に関する全ての資料が保存される
- 自動でスキャン作業の実行が可能 / アイコン及び、各機能の活性化は作業類型によって異なることがある

② マルチダイの画面構成

「マルチダイ」ボタンをクリックしたら下記の画面が表示される



・ボタン説明

① マルチダイ位置設定

スキャンする支台歯を、マルチダイ 1 番から 8 番までの間に希望する位置に製作した補綴物を選択

② 作業設定

・歯牙タイプ ▶ クラウン / コーピング

「シンプルコーピング」：支台歯の上に一定な厚さのキャップ補綴物

・歯牙タイプ ▶ インレー / ベニア

「インレー」：インレー支台歯の上に一定な厚さのインレー補綴物

・歯牙タイプ ▶ ワックスアップ

「アナトミカルワックスアップ」：支台歯とその上に、完全な形態のワックスアップ補綴物をスキャン

(補綴物の複製加工のため)

「カットバックワックスアップ」：支台歯とその上に、完全な形態のワックスアップ補綴物をスキャン、

複製してセラミックで作業する部分を削除または、縮小して製作

「ポンティックワックスアップ」：ポンティック部分に、完全な形態のワックスアップ補綴物をスキャンして

複製した補綴物 (補綴物の複製加工のため)

・プロジェクト情報

「プロジェクト ID」：ID

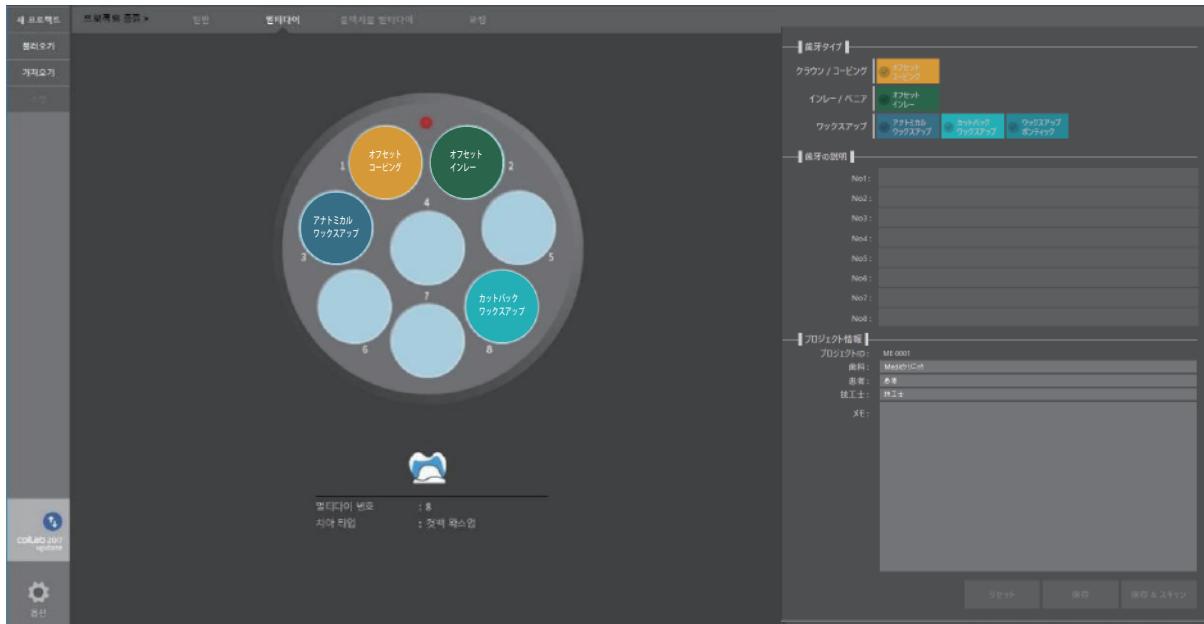
「歯科」：歯科情報

「患者」：患者情報

「技工士」：作業者情報

「メモ」：特記事項

実行作業情報



下記の手順の通り、作業情報を入力する

1. マルチダイで補綴物の種類と、支台歯のスキャン位置を選択する

選択した補綴物は種類によって各々違う色で表示される。〈p11 参照〉

2. 設定したマルチダイ位置に設定した支台歯に対する説明を入力する

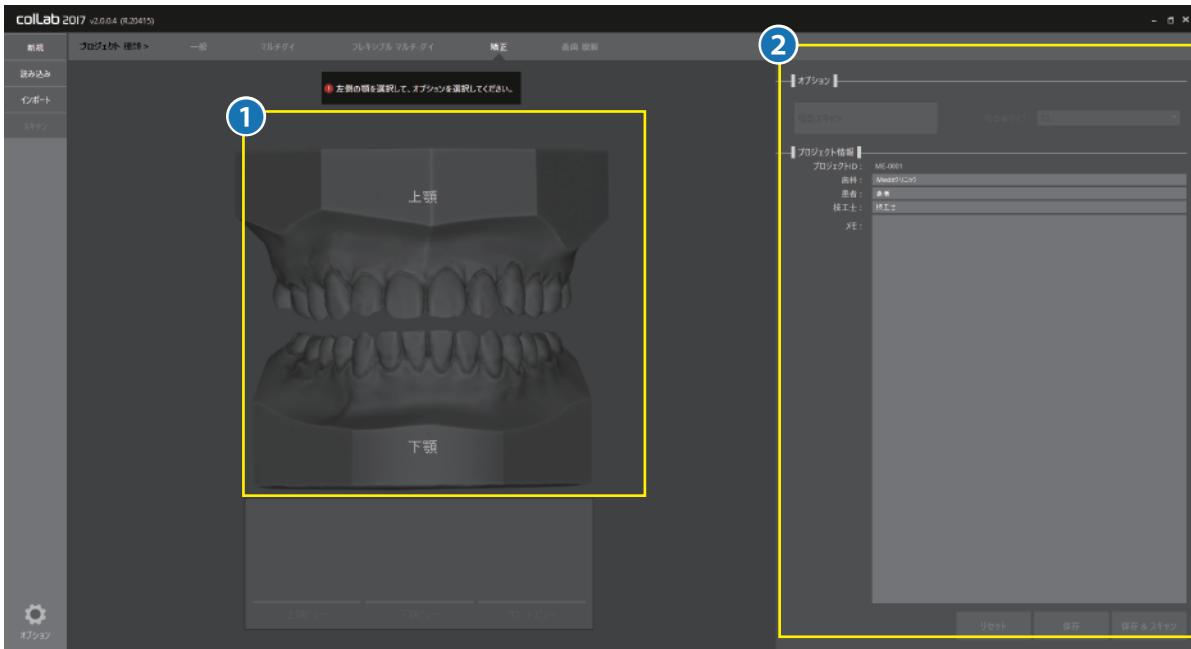
3. 歯科、患者、作業者などの情報を入力

4. 保存と作業実行

- ・作業情報の入力を完了後「保存 & スキャン」をクリックする
- ・保存した作業情報がデータベースに追加され作業フォルダーが生成されるフォルダーには作業に関する全ての資料が保存される
- ・自動でスキャン作業の実行が可能 / アイコン及び、各機能の活性化は作業類型によって異なることがある

③ 矯正の画面構成

「矯正」ボタンをクリックしたら下記の画面が表示される



ボタン説明

① 頸弓設定

スキャンする頸弓を選択

② 作業設定

「オプション」：咬合スキャンで上顎と下顎を同時に選択すると [咬合スキャン] オプションが活性化される
矯正モデルに咬合が必要ない場合には解除する

咬合関係が必要な場合には、このオプションを選択してその右側に咬合器タイプも選択する

咬合器タイプは一般設定を参照する

・プロジェクト情報

「プロジェクト ID」：ID

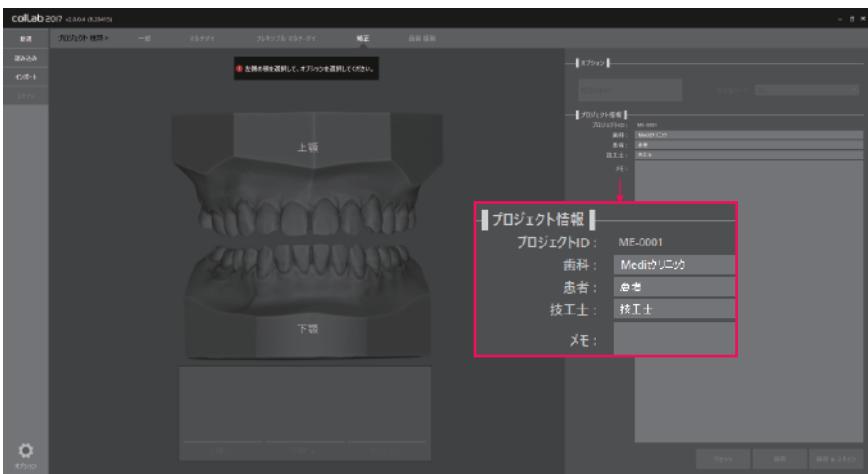
「歯科」：歯科情報

「患者」：患者情報

「技工士」：作業者情報

「メモ」：特異事項

実行作業情報

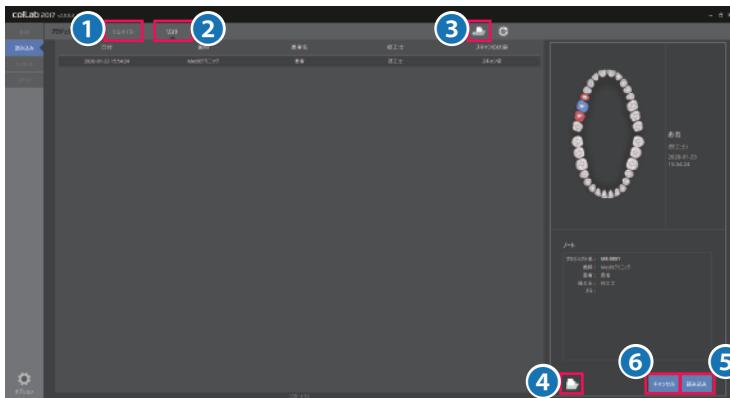


下記の手順の通り作業情報を入力する

1. スキャンする顎弓を選択する
 2. 両顎を全部選択した場合には、咬合スキャンをするかどうかを選択する
 3. 歯科、患者、作業者などの情報を入力
 4. 保存と作業実行
 - ・作業情報の入力を完了後「保存 & スキャン」をクリックする
 - ・保存した作業情報がデータベースに追加され作業フォルダーが生成される
フォルダーには作業に関する全ての資料が保存される
 - ・自動でスキャン作業の実行が可能
- アイコン及び、各機能の活性化は作業類型によって異なることがある

・読み込み画面構成

「読み込み」ボタンをクリックしたら下記の画面が表示される

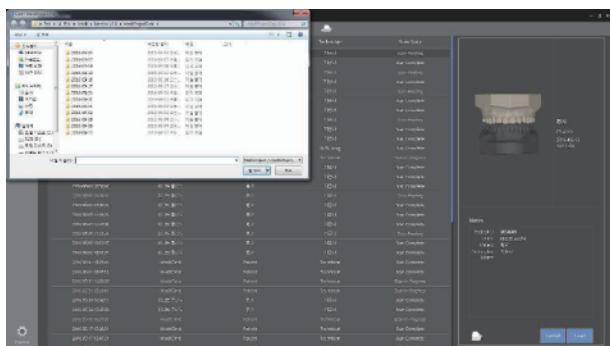


ボタン説明

- ① 「サムネイル」: 読み込みが可能な作業のリストをサムネイルの形態で表示する
- ② 「リスト」: 読み込みが可能な作業のリストをリストの形態で表示する
- ③ 「File Load」 :「meditProject」ファイルを直接に選択して読み込む
- ④ 「Open Folder」 :読み込んだ作業が入ってるフォルダーを、新しいウィンドウで開く
- ⑤ 「読み込み」: 選択した作業を読み込む
- ⑥ 「キャンセル」: 選択した作業を読み込みを、キャンセルして新しい基本作業に戻る

④ インポートの画面構成

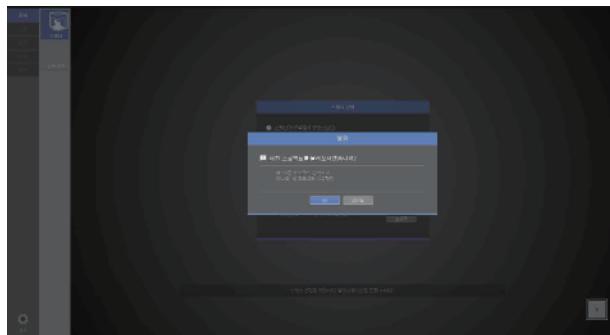
「インポート」ボタンをクリックすると、下記の画面が表示される



インポートする「.dentalProject」ファイルを選択する



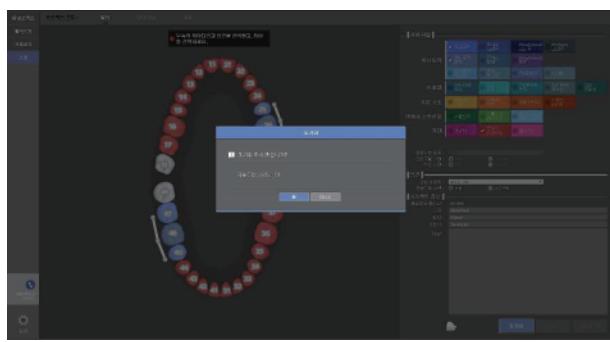
インポートした設定で修正したい部分を修正して
「保存 & スキャン」ボタンをクリックする
修正することがなければ、「スキャン」
ボタンをクリックして次の行程に進む



作業ケース読み込みに成功した画面



初期画面に戻る場合は、「リセット」ボタンをクリック



「はい」をクリックすると初期画面に、
「いいえ」をクリックすると元の画面に戻る

⑤ スキャンの画面構成



「スキャン」ボタンをクリックすると
横の画面が表示される

・設定画面構成



「オプション」ボタンをクリックすると
横の画面が表示される

・ボタン説明

「アップデートエージェンシー」：現在のバージョンが最新か確認後、

アップデートプログラムを実行。[\(会員登録が必要\)](#)

「オンラインヘルプ」：プログラムにエラーが起こった際、解決策の情報を掲載している

「設定」：colLab プログラムに関する設定値の変更が可能

「情報」：現在使用しているプログラムの情報が表示される

・オプション▶設定

「技工所」：技工所の名前を登録する

「技工士」：技工士の名前を登録する

「言語」：言語を設定する

「ラベリング」：歯牙番号の方式を FDI と ADA 番号の中で選択する

「保存経路」：スキャンが保存される経路を設定（フォルダーボタンをクリックして経路を設定）

「プレスポンティック」：プレスクラウンと同一な機能のポンティックを設定

・保存ルール：

1. 「Date/Clinic-Client-Order」：日付が上位フォルダーに生成され、

下位に「Clinic-Client-Order」の形式でフォルダーを生成してデータを管理する

2. 「Date-Clinic-Client-Order」：日付の上位フォルダーを作らず 1 つフォルダーにデータを集めて保存する

フォルダーの名前は「Date-Clinic-Client-Order」の形式で生成してデータを管理

「CAD プログラム」：Dental DB ファイルを選択して exocad と連動したい場合に使用する

・自動アップデート：

1. 「自動設置」：アップデートアイコンをクリックしなくても、自動的にアップデートバージョンを

パソコンにダウンロードする。ダウンロードが完了後アップデートする

2. 「手動設置」：アップデートバージョンがあればアップデートボタンが表示され

クリックしたら、ダウンロードを開始して設置まで進む

⑥ colLab Scan の使用方法

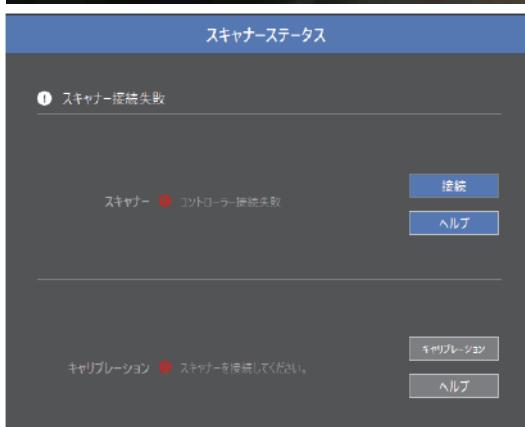
colLab S/W で設定完了後、スキャンボタンをクリックすると、colLab Scan S/W が実行する

- ・装備使用前の準備事項



スキャナが正常に繋がっているかどうか：プロジェクターのブート確認

電源が ON の時、本製品の起動中にプロジェクターから MEDIT のロゴが見える



プログラム設置後に実行する際に、

スキャナの接続状態を確認：プログラムを実行した際の初期画面

初めての接続状態を確認する際に左の画面の様にメッセージが表示される

スキャナのカメラとパソコンとの接続が失敗した場合には、下記の画面の通り表示される



・カメラが正常的に接続されなかった場合に発生

USB ケーブルの接続状態を確認

プロジェクターと colLab S/W がパソコンと接続されていない場合は、下記の画面の通り表示される



・プロジェクターが正常に接続されなかった場合に発生

プロジェクターの接続を確認

デバイスマネージャーでネットワークアダプターを確認

⑥ キャリブレーション



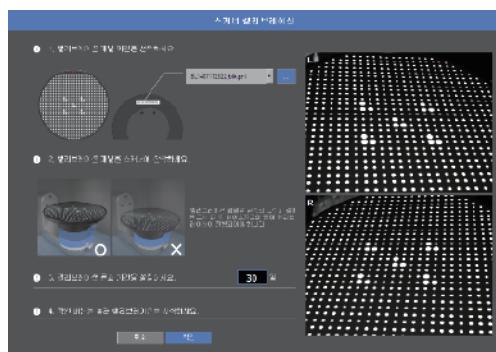
正常にスキャナが繋がった状態

キャリブレーションボタンをクリックして
キャリブレーションを進める

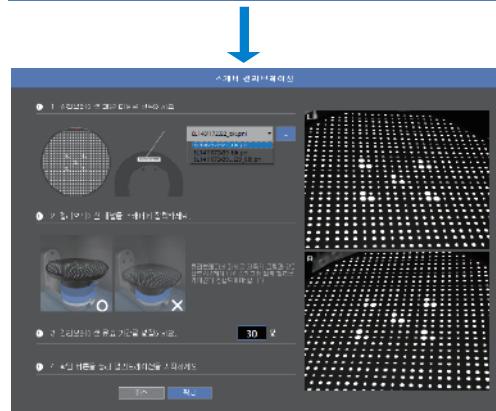


スキャナが繋がっていると、どの段階でも左下のキャリブレーションボタンをクリックして
キャリブレーションを進める事が出来る

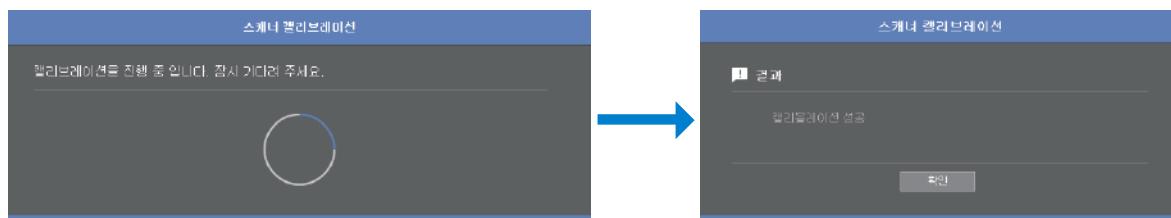
① PNL ファイル選択



- ・パネルの製品番号を確認する
- ・pn1 ファイルを選択する
- ・使用者が希望するキャリブレーションの周期を入力し
「確認」ボタンを押すと自動キャリブレーションが進む
- ・キャリブレーションパネルを、下記の写真の様に
必ず 2 つのハーフブロックジグの上に乗せる



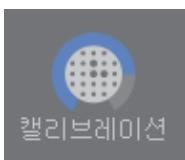
写真の様にキャリブレーションパネルをスキャナに装着する



2 分程でキャリブレーションが完了する

その後、成功・失敗の結果が表示され、正常にスキャナに接続されると自動で準備へ進む
正常にスキャナが繋がったら準備へ自動で進み、スキャン行程の手順を決める

② キャリブレーション周期



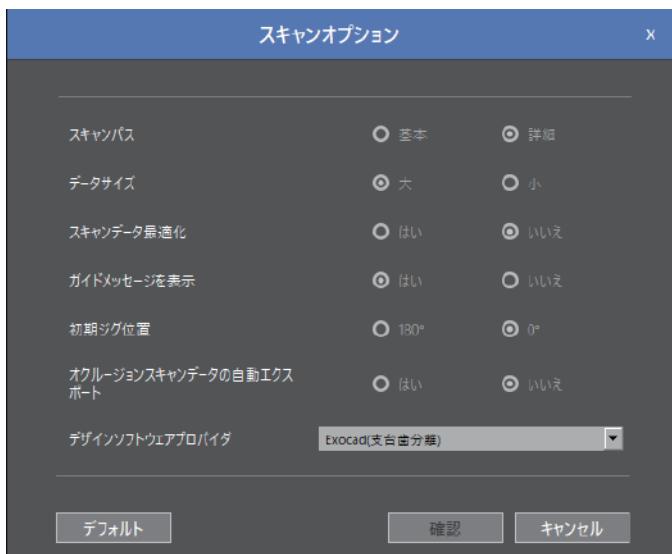
キャリブレーション周期に入っているので
別途のキャリブレーションが不要



キャリブレーション周期を過ぎたので、キャリブレーションが必要
アイコンをクリックしてキャリブレーションへ進む

・オプション▶スキャンオプション

下記の画面の通り、選択事項をクリックして colLab Scan のオプションを、変更することが可能



「スキャンパス」：「スキャン」行程で使用者好みに合わせて、自動スキャンのカット数を調整して使用することが可能

「基本」：自動スキャンで最小限のカットで進み、別途必要な部分は追加スキャンを行う / 上級者に推奨

「詳細」：スキャンカット数が多いが最大限、追加スキャンをしないように自動で W スキャンを選択する

「データサイズ」：スキャンデータをマッチング後、保存されるファイルサイズを変更可能

「スキャンデータの最適化」

例：新しいデータマッチングのアルゴリズムを適用して、スキャンデータをマッチングする際、

スキャンデータを再構成して、品質を最適化させて綺麗なスキャンデータの獲得が可能

データの品質が重要な場合に推奨。スキャンする時間が長くなる場合がある

「いいえ」：既存のマッチング方式を利用するがスキャン時間を縮める / 速度が重要な場合に推奨

「プロジェクターのスリープモード」：「スキャン」行程で一定時間スキャナを使用しない場合、自動的にプロジェクターのランプが消える機能 / ランプが消える時間を調整することが可能

「ガイドメッセージ表示」：スキャンする際、ガイドメッセージの表示を設定できる

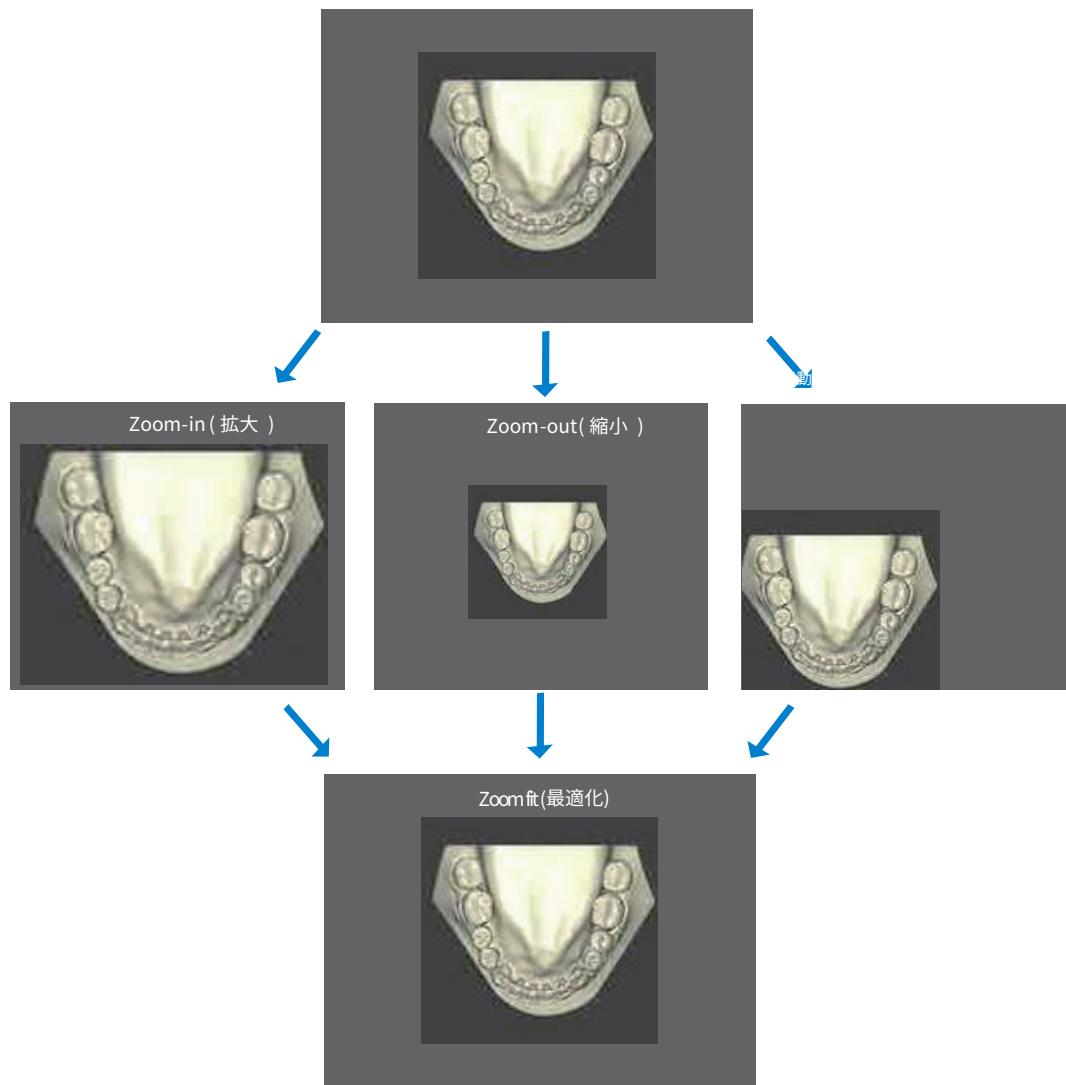
「初期ジグ位置」：「スキャン」行程で、スキャンする前に初期ジグ位置を、0 度又は 180 度で設定することが可能

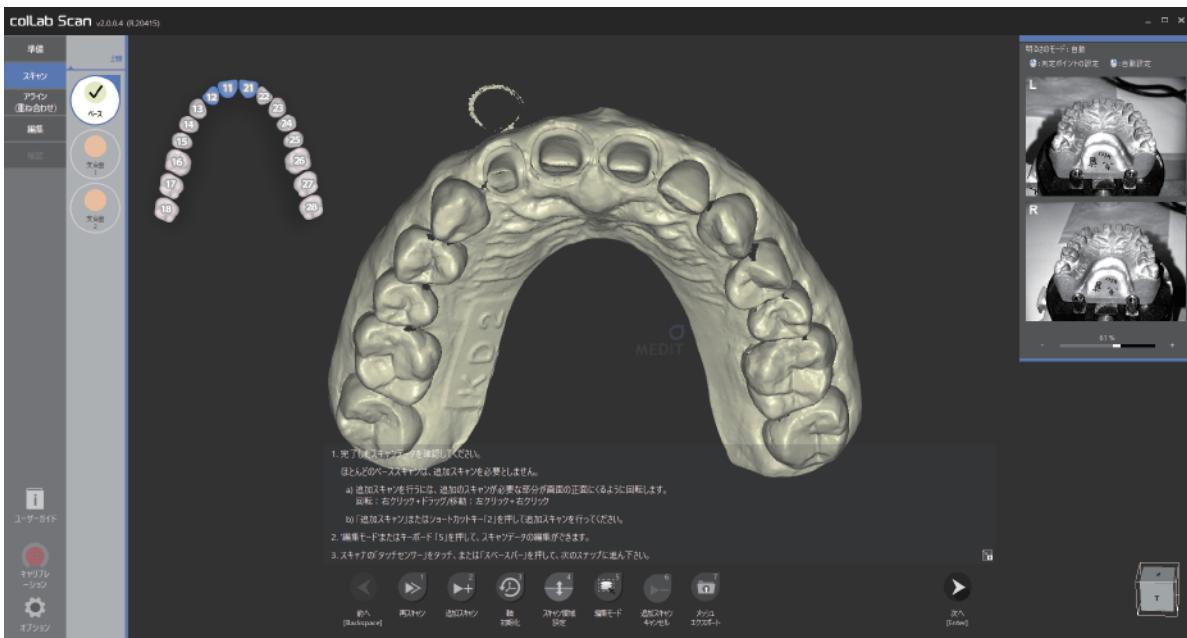
「デザインソフトウェアプロバイダー」：スキャンしたデータをデザインソフトウェアで、デザインできるように

X 軸または、Y 軸を変更して保存する

③ 最適化 (Zoom fit)

拡大、縮小、移動したモデルを、キーボード「F」を押して画面の中央に元のサイズに戻す





「四角形 / 自由形で選択」：ボタンをクリックしてスキャンデータを四角形や自由形で選択する（ホットキー“1”）

「全体選択」：全てのデータを選択する（ホットキー“2”）

「全体解除」：選択したデータを全て解除する（ホットキー“3”）

「選択領域反転」：選択したデータを反転する（ホットキー“4”）

「残す」：選択した領域以外のデータを全部削除する（ホットキー“5”）

「削除」：選択したデータを削除する（ホットキー“6”）

「初期化」：編集をする前の初期のデータに戻る（ホットキー“7”）

「戻る」：編集した1つ前の段階に戻る（ホットキー“8”）

「再実行」：戻した機能を再実行する（ホットキー“9”）

上記の機能を使用して、希望する部分を残しデータ編集を進める



スキャン行程でも、「編集モード」をクリックすると編集が可能

⑦ メンテナンス

- ・長時間使用しなかった本製品を再使用する場合には本製品の正常な設置とキャリブレーションの状態を確認する
(推奨キャリブレーション周期は1ヶ月に1回)
- ・正常にスキャンデータが出るかを確認する
- ・本製品の掃除は本製品の内部に水が入らないように乾いた布を使用して定期的に掃除する
- ・本製品の内部を点検する時、必ず本製品の電源を切って行う
- ・スキャンスプレーをスキャナの内部の方向にかけてはいけない
- ・スキャナ内部の鏡を触らない

保管条件及び貯蔵方法

- ・本製品の表面は乾布でやさしく拭き、水や液体等の異物が触れないように注意しながら拭く
- ・使用した部品は不注意による破損しないように安全な場所に保管する

使用環境条件

- ・周囲温度範囲 : 18 ~ 28 °C
- ・相対湿度 : 20 ~ 75%

移動及び保管環境条件

- ・周囲温度範囲 : -5 °C ~ 45 °C
- ・相対湿度 : 20 ~ 80%

